



村上博幸 句集

夏木立

Natsukodachi / Grove in summer

Hiroyuki Murakami Haiku Anthology

目次

序	ゆく春主宰	山縣輝夫	3
夏	：	5	
秋	：	11	
冬	：	17	
新年	：	21	
春	：	23	
海外詠	：	27	
英語俳句	：	33	
俳文	丹後にて	：	39
あとがき	村上博幸	：	43

序

ゆく春 主宰 山縣輝夫

秩父で国語の先生をしていた故清見北斗さんに紹介され、村上博幸さんはゆく春に入会した。

かつて私は海外駐在や海外出張が多かったが、音楽業界に入った村上さんの海外出張は私より更に多いようだった。特に上原ひろみさんに同行することが多かつたらしく、今日の彼女の名声には、英語に堪能だった村上さんの支援が欠かせなかつたと思われる。

改めて今回の村上さんの句稿を見て、難解な句は全くなく、頭でひねって作った句は見当らなかつた。最初の師匠の清見北斗さん自身は難しい句も作られたが、村上さんの個性を大事にされていたのだろう。村上さんの人柄のよさ、やさしさが、それぞれの句の背景にあるような気がした。どれをとっても作者にとつて思いの強い句だろうが、私の好みで次の佳句をあげてみた。

アナウンスの声裏返る暑さかな

図書館の床ペタペタと跣足の子

新ばしり看板娘にして無口

七夕竹迷ひて残す願ひごと

セラピーの素材に足せる落穂かな

標識を過ぎ羚羊の国に入る

犬構ふ有るか無きかの笹鳴きに

明日会へるやうな送別春シヨール

学長の読経に和して入学す

裏道に浮かぶビストロ春燈

全人種一つリンクを滑りをり

今回の句集は電子書籍という新しい方式で、私にとっても、ゆく春にとっても最初の出会いだが、新しい時代に即応した村上さんの試みに拍手をおくりたい。また、最近村上さんの紹介で有望な若い新人がゆく春に入会しており、併せて今後の活躍、発展を期待していることを附記する

夏

S
u
m
m
e
r



カフェ涼し真空管のボサノバも
どこまでを青春と言ふ花芙蓉
成田着機は五月雨に和みけり
アナウンスの声裏返る暑さかな
萍ついでや佳人じんは厨くりや口ぐちに消え
マーガレット九十歳のキャンバスに